

生活協同組合

パルシステム東京 <https://www.palsystem-tokyo.coop/>



「ジャパン SDGsアワード」
第1回 受賞

本部事務所 ————— 〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
TEL 03-6233-7600(代) FAX 03-3232-2581
Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp

配送センター ————— 江戸川センター 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
江東センター 〒136-0076 江東区南砂2-36-1
足立センター 〒121-0011 足立区中央本町4-3-7
港センター 〒108-0075 港区港南5-5-12
大田センター 〒146-0081 大田区仲池上1-31-1
板橋センター 〒174-0041 板橋区舟渡3-20-28
池尻センター 〒154-0001 世田谷区池尻2-23-4
練馬センター 〒179-0073 練馬区田柄4-38-5
世田谷センター 〒157-0061 世田谷区北烏山7-21-11
狛江センター 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24
三鷹センター 〒181-0013 三鷹市下連雀6-15-18
府中センター 〒183-0052 府中市新町2-29-4
東村山センター 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1
多摩センター 〒206-0032 多摩市南野1-2-5
昭島センター 〒196-0021 昭島市武蔵野2-23-2
八王子センター 〒192-0033 八王子市高倉町4-7
青梅センター 〒198-0024 青梅市新町3-11-1

福祉事業所 ————— ●江戸川陽だまり 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
●辰巳陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-2-9-101
●辰巳陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
●東雲陽だまり 〒135-0062 江東区東雲2-4-3-106
●足立陽だまり 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 2F
●八潮陽だまり 〒140-0003 品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
●●中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野4-7-9 1・2F
●●第2中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野1-4-10
●中野中央陽だまり 〒164-0011 中野区中央5-41-18 東京都協連会館5F
●上町陽だまり 〒154-0017 世田谷区世田谷2-8-2
●狛江陽だまり 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24
●府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-29
●府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-30
●東村山陽だまり 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1
●愛宕陽だまり 〒206-0041 多摩市愛宕3-2 愛宕かえで館1F

保育園 ————— ばる★キッズ府中 〒183-0054 府中市幸町2-13-29 1F
ばる★キッズ足立 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 1F

関連施設 ————— パルひろば辰巳 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
パルひろば足立 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 3F
パルひろば下馬 〒154-0002 世田谷区下馬4-13-6

●デイサービスセンター
●ホームヘルプサービス
●ケアマネジメントサービス
●認知症対応型デイサービスセンター
●認知症対応型グループホーム

▶ Instagram



▶ Twitter



発行 生活協同組合パルシステム東京 広報室
2022.07

TSUNAGU 2022

生協・環境・社会活動報告書



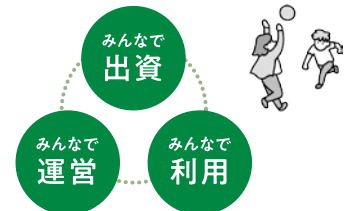
pal*system
生活協同組合パルシステム東京

パルシステム東京について	パルシステム東京の理念……………4 パルシステム東京2030ビジョン……………5 パルシステムグループ……………5 組織概要……………5		>
パルシステムの事業	宅配・共済……………6 福祉……………8		>
「食」の取り組み	① 安全な「食」を求めて……………10 ② 商品の価値を伝える……………12 ③ 食料自給率の向上を目指して……………13		>
「環境」の取り組み	① 地球温暖化を防ぐために……………14 ② 石けんの利用普及……………15 ③ 3R とプラスチック問題……………16 ④ 身近な自然を守る……………17		>
「人」の取り組み	① 地域とつながる……………18 ② 平和な暮らしを守るために……………20 ③ 被災地の復興を支援する……………21		>
働く環境づくり・人材育成	リスクマネジメント……………23		>



生協とは？

生活協同組合(以下、生協)は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上をはかることを目的に設立された組織です。組合員自らが出資し、自分たちの暮らし全般を向上するためにそれぞれの思いを寄せ合って決めた方針に基づく商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協組織の「主体」なのです。



Connecting for a sustainable future

持続可能な未来は「つながりあい」から

2021年度も、パルシステム東京が掲げる理念のもと暮らしを支える事業と活動を継続してきました。皆さまの応援、励ましに心から感謝申し上げます。

約2年に及ぶコロナ禍で、新自由主義による格差の拡大や地域の関係性の希薄化など、潜在化していた社会の歪みがよりあらわになっています。

パルシステム東京では、これまで行ってきた地域団体への予備青果の提供・子ども食堂への調味料提供に加え、2021年度は新たに生活困窮家庭へお米の支援を行いました。地域で活動をする皆さまと手をつなぐことは、目の前の「コト」への取り組みであると同時に、未来へつながる一歩です。

現在、私たちが長年願ってきた平和が危機にあります。なにがあっても命を脅かすことは許されません。平和あってこそ暮らしが、そして未来が成り立ちます。パルシステム東京では、「平和な共生の世界」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切にする社会」「次世代が希望をもてる地域」に重点を置いた平和活動を行っています。多くの人々の知恵を集め行動に移すことで、みんなで危機を乗り越えたいと思います。

困難な課題のある2022年度ですが、私たちは無力ではありません。仲間とつながりあい、力を合わせることができる。そんな希望もあります。本冊子『TSUNAGU』を手にした皆さまと一しょに、よりよい未来を子どもたちに残すべく歩んでいければ幸いです。

生活協同組合
パルシステム東京

理事長 松野 玲子

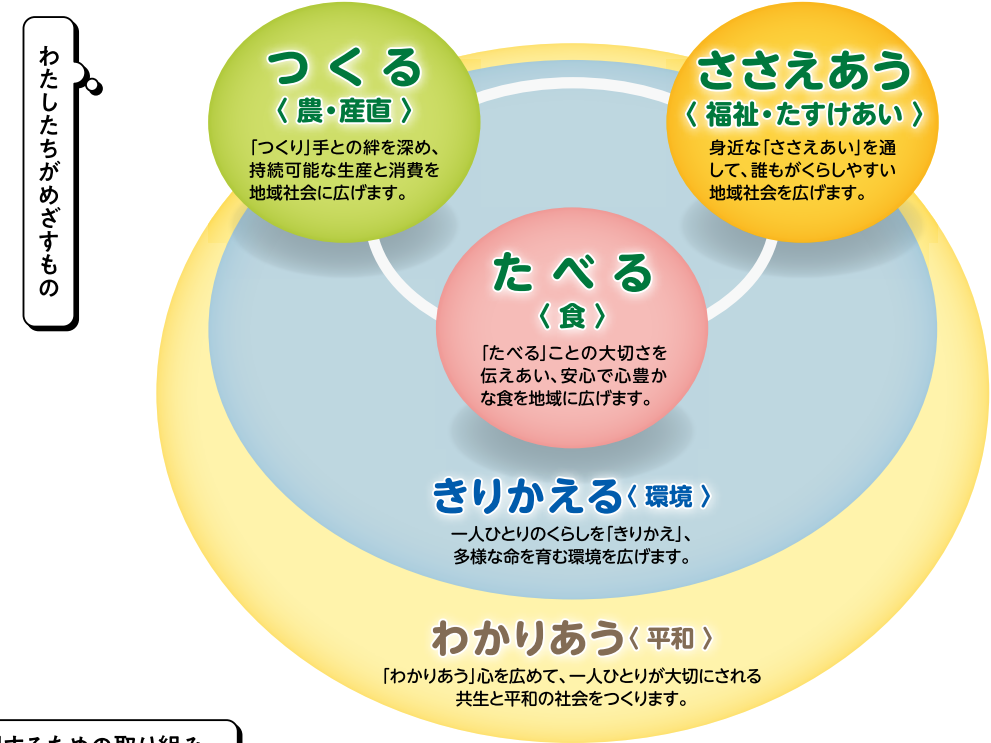


パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」
「人」を大切にした
「社会」をつくります

パルシステム東京2030ビジョン

「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり 一人ひとりの行動で、持続可能な地域社会をつくり、世界の平和につなげます



実現するための取り組み

社会活動

- 社会的課題の解決に向けて、NPOをはじめとした他団体や協同組合間で連携した取り組みをすすめます。
- 笑顔ひろげる身近な地域づくりに向けて、事業所を拠点に、行政・地域団体と連携した取り組みをすすめます。

事業と活動

- 人生100年時代を見据えた学びや活動の機会を広げていきます。
- 一人ひとりの多様なくらしに対応した事業の改善・開発をすすめます。

人と組織

- 生協運動の活性化と継承に向けて、組合員参加の入り口を広げるとともに、担い手づくりをすすめます。
- パルシステムを担う人材の多様な働き方の創出や雇用環境の整備をすすめます。

パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有している10生協※が、パルシステムグループを構成しています。
パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数ともに最大規模の生協です。

※利用事業会員を含めると13生協

パルシステム連合会

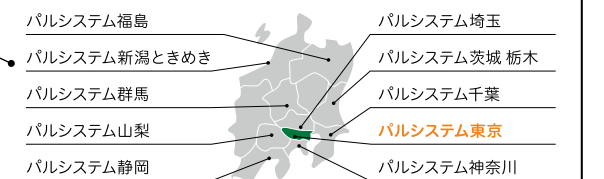
商品開発、仕入れ、商品管理、物流、情報システムを担当

それぞれの生協

商品やサービスの供給（個人宅配など）、福祉事業、組合員活動の支援ほかを担当

pal★system

パルシステム生活協同組合連合会 パルシステムグループ 会員生協約168万人

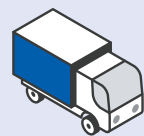


組織概要

名称：生活協同組合パルシステム東京
立：1970年4月1日
役員：理事長 松野 玲子
専務理事 杉原 学
常務理事 佐藤 健二
業務執行理事 杉村 剛是
業務執行理事 市嶋 淳一

事業エリア：東京都全域（島嶼を除く）
本部所在地 東京都新宿区
配送センター 17カ所
福祉事業所 13カ所
保育園 2カ所

職員数：1,833人（定時職員含む）
組合員数：52万3,596人
総事業高：891億2,135万円
出資金：210億8,962万円
※数値は2022年3月末時点



パルシステムの事業

宅配・共済

コロナ禍で需要の増えた宅配事業では、組合員の皆さまの利便性をあげる取り組みを積極的に行いました。共済事業では、剰余金の一部を活用し、子育て支援や福祉助け合い活動など助成という形でサポートしています。



新サービス「パルのはこ」をスタート

「離れて暮らす家族にパルシステム商品を食べさせたい」という組合員の願いと、パルシステム配達エリア内外を問わず、何世代にもわたり商品を利用できる環境を整える目的で、一部商品（冷凍・常温品）を全国に宅配でお届けできるようになりました。遠方で暮らす親や、家を出て一人で暮らす子どもへの仕送りなどに利用されています。

あなたのおもいを全国にお届け

パルのはこ



動画はこちら



高齢者のくらしを支える見守り活動

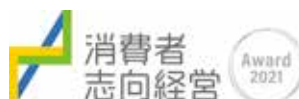
毎週同じ曜日・時間帯に同じ配達担当が訪問する宅配事業の特徴を活かし、自治体がすすめる見守り活動に協力。東京都及び都内53の行政区と見守り協定を締結し、地域包括支援センターや行政の関係各課と連携して、早期の安否確認、対応などに貢献しています。

例えばこんなことがありました

1人暮らしの高齢組合員宅に配送に伺った際、めずらしく不在で、先週お届けした商品もそのまま置かれた状態でした。何かあったのではと思い、地域包括支援センターに連絡を取りました。翌日、ご家族から「体調不良で倒れていたため、担当の方が連絡をしてくれとても感謝しています」とお礼の言葉をいただきました。

パルシステムの取り組みが評価されています

環境保全や、高齢社会の課題を捉えたさまざまな取り組みが評価され、消費者庁などが主催する「消費者志向経営優良事例表彰」で、消費者庁官表彰を受賞。育児系情報サイト「ベビカム」主催の「ベビカムアワード」でも生活部門「食材宅配」カテゴリで優秀賞を受賞しています。



環境に配慮した取り組みを若い世代へ

港区芝浦港南地区総合支所の依頼を受け、パルシステム東京港センターで実施しているリユース・リサイクルの取り組みを、地域の高校生に紹介しました。上述支所では、若年層を中心とした地域を担う人材育成を支援する「SKDs※学びのまちプロジェクト事業」を推進。取材に訪れた高校生による公開発表会も行われ、そこでは「パルシステムの取り組みは、私たち若年層がこれから取り組むべき課題です」といった言葉も。取材内容をまとめたアクションブックも発行され、組合員ではない方々に事業内容を伝える機会となりました。

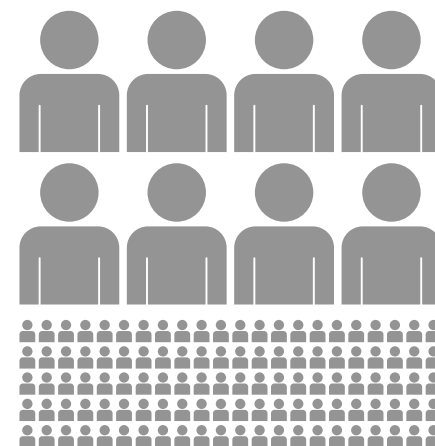
※S（芝浦） K（海岸2・3丁目・港南）
D（台場） S（サステナブル）



数字でみるパルシステム東京2021

暮らしとかかわる宅配・共済が、ぱっと見てすぐ分かる！

新しく組合員となった人



37,805人

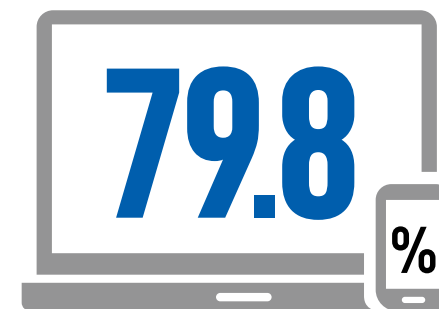
CO・OP共済の給付件数



24,773件

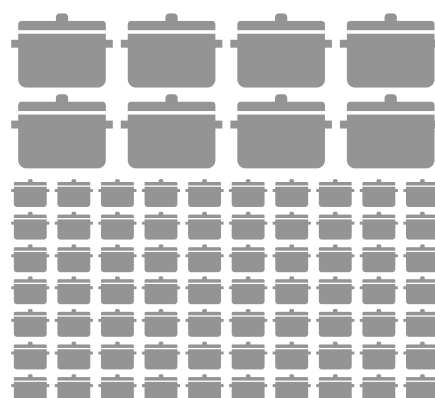
CO・OP共済（たすけあい、あいぶらす、ずっとあい）
2022年3月20日時点の数値

「インターネットサービス」登録率



webサイトやスマートフォンアプリで注文
配達状況確認やクチコミ機能などもっと便利に

「お料理セット」の年間売り上げ個数



3,520,726セット

昨年比約110.7%アップ
一番人気は「産直豚肉のチンジャオロースセット」

配送しているトラック台数



※数値は2022年3月末時点



パルシステムの事業

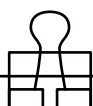
福祉

職員が工夫を凝らし子どもたちの学びの場を広げた2021年。パルシステム東京らしい「共生ケア」の取り組みも再開しました。



福祉事業所「陽だまり」

地域に根ざした「総合サービス」を目指して、ケアマネジメントサービスや訪問介護、グループホームなどを展開しています。日常生活そのものをリハビリと捉えた「生協10の基本ケア」を導入。利用者とその家族が、住み慣れた地域で自立した生活を継続することを目指しています。



生協10の基本ケア

- 1 換気をする
- 2 床に足をつけて座る
- 3 トイレに座る
- 4 あたたかい食事をする
- 5 家庭浴に入る
- 6 座って会話をする
- 7 町内におでかけをする
- 8 夢中になれることをする
- 9 ケア会議をする
- 10 ターミナルケアをする



外国人技能実習生の配属

介護を担う人材不足が継続的な課題となっています。パルシステム東京では人材確保の方法として注目されている「外国人技能実習制度」に、2019年から取り組んでいます。2021年度に配属予定となっていた4期生は、コロナ禍とミャンマーの情勢により来日が延期となっていました。2022年春に入国の目途がつき、特定技能を含めたミャンマーからの人材は総勢7名に。1期生3名のうち2名は介護技能実習評価試験に合格。特定技能※へ移行し、事業所の異動を予定しています。また、熊本の法人で3年間勤務した1名も特定技能に移行し、2022年春より「足立陽だまり」にて勤務しています。陽だまりに配属となって2年が経過した2期生の2名については、2021年冬に日本語能力検定2級(N2)を受験、1名が合格しました。

※外国人労働者用の在留資格



デイサービスの利用者一人ひとりに優しく声をかける

TSUNAGU Interview /

外国人技能実習生インタビュー

八潮陽だまりの外国人技能実習生「トエさん」と施設長の「清水さん」にお話を聞いてみました！



八潮陽だまり
施設長 清水さん



八潮陽だまり
職員 トエさん

いつも元気にお仕事をされているトエさん
普段の生活の様子を教えてください

トエさん

朝は8時または9時から、週5日のシフトで働いています。お仕事のあとは買い物に行ったり、休日は実習生の仲良しの友だちと話したり、遊びに行きたいところを調べたりしてます。ミャンマーから日本に来た頃は、慣れない生活で寂しいと思うこともあったのですが、実習生の友達や職員みなさんのおかげで、今は有意義な毎日を送っています。

外国人技能実習生の方と一緒に働く上で
感じた課題などありましたか？

清水さん

実習生の方々は日本語がある程度話せるので、言葉の大きな障害はありませんでした。ただ、日本語の微妙なニュアンスや日本のしきたり、感覚・感情などが伝わりにくく感じることも。仕事以外でも、コミュニケーションの時間を増やすことで少しずつ解決していきました。

トエさん

初めの頃は交換日記のやり取りをしていただき、とても勉強になりました。分かりにくい言葉はミャンマー語に翻訳してもらえたので、ありがたかったです。

トエさんほか実習生の方が
配属されてから施設に変化はありましたか？

清水さん

利用者の方々は抵抗なく実習生さんを受け入れてくださったので、特に混乱などはありませんでした。若い職員が増えたことで利用者さんだけでなく、職員にも良い刺激が生まれて、施設の中が一層明るくなったように感じます。私自身は、日本語だけではなく、日本の文化や生活習慣、それから仕事のあり方を実習生の方にきちんと伝える指導を意識するようになりました。

最後に、お二人の抱負やメッセージをお願いします

トエさん

これからも、もっと日本語の勉強を続けていきたいです。将来、介護福祉士の資格を取ることを目標に頑張ります。

清水さん

母国ミャンマーを心配しながらも、慣れない日本で仕事をするトエさんの姿を見て、いつも頭がさがる想いです。コロナが落ち着いたら日本各地を訪れたり、楽しむ時間を持ってもらいたい。そして日本で多くを学び、人として心豊かに、素直な気持ちで夢を叶えてほしいと、心から願っています。

ありがとうございました。

認証保育所「ぱる★キッズ」

パルシステム東京は都内2カ所で東京都認証保育所「ぱる★キッズ」を運営。保育理念「たべる・食育」「ふれる・木育」「あそぶ・遊育」のもと、健やかなからだと豊かな心を育んでいます。また、併設する福祉施設「陽だまり」の利用者さんとの日常的なふれあい(共生ケア)を通じ、世代を超えて互いを尊重し合うこころを育んでいます。

季節でめぐる「食育」「木育」「遊育」

春 バケツ稲

苗・土ともに産直産地・越市のもの。苗の生長と子どもたちの成長が重なる体験です。



お米の赤いおこぼれ
そーっと
植えられたよ

夏 梅シロップづくり

できあがった初夏の味を、親子で楽しむ機会となりました。



梅って
甘いにおいが
するんだね

秋 お散歩

近所の公園や道路、家々も見方や視点を変えれば新たな発見と感動につながります。



葉っぱの
おかげだよー

冬 クリスマス

併設する福祉施設「陽だまり」の利用者さんとシンボルツリーの飾りつけをして、交流を深めています。



メリークリスマス

そしてまた…

春 卒園式

2021年度は3名が「ぱる★キッズ足立」を巣立ち、晴れて小学生になりました。木の香りがする園舎とも別れ。



また遊びに来るよ

「食」の取り組み
 食べることは、生きること。
 本物の味わいと安心を届けたい。



01 安全な「食」を求めて

パルシステムでは、環境保全や持続可能な生産、安全・安心な商品づくりを目指し、生産者や製造メーカーとともに、農業・化学肥料の削減や、食品添加物の削減に取り組んでいます。

農業削減の取り組み

コア・フードとエコ・チャレンジ

パルシステムでは、食と農をつないで豊かな地域社会をつくることを目指し、産地とともに「環境保全型農業」をすすめています。

環境保全型農業って？

農業・化学肥料削減

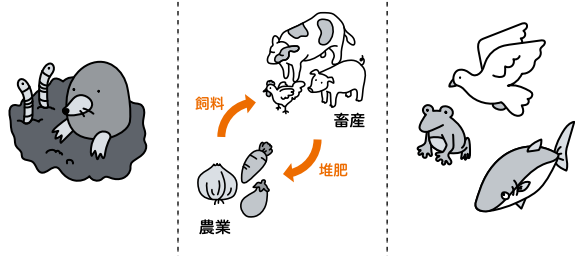
できるだけ化学合成農業・化学肥料を減らします。

資源循環型農業

堆肥、有機質肥料を使うなど、地域の資源循環をはかります。

生物多様性

自然環境が保たれ、多様な生きものを育みます。



環境保全型農業の一環として、農業・化学肥料を減らすため、「農業削減プログラム」を策定し、独自の基準を定めています。その中で生まれたのが「コア・フード」と「エコ・チャレンジ」です。

コア・フード 有機JAS認証※を取得 ※化学合成農業、化学肥料を使わない (定められた使用可能資材を除く)		エコ・チャレンジ エコ チャレンジ
化学合成農業	不使用	各都道府県の慣行栽培基準の1/2
化学肥料	不使用	各都道府県の慣行栽培基準の1/2
その他	環境保全や資源循環型の生産に配慮したパルシステムのトップブランド	パルシステムの削減目標 農業不使用 青果は除草剤、土壌くん蒸剤不使用

パルシステム東京では、企画などを通じて、コア・フード、エコ・チャレンジの魅力を伝える取り組みをすすめています。



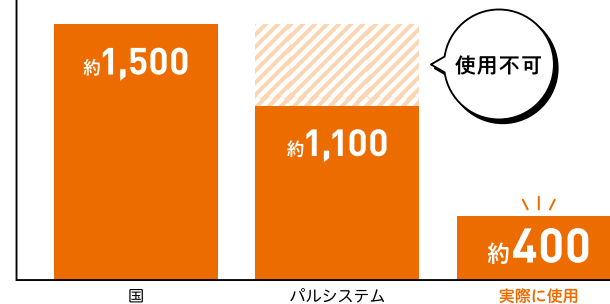
PLAオンライン企画
「有機でいると、わたしの台所」

パルシステムの商品づくり

不必要な添加物は使いません!(食品添加物の削減)

パルシステムでは、国よりも厳しい「食品添加物の独自基準」を設けています。国が認可した添加物約1,500物質のうち約1/4を使用不可に。さらに、独自基準内であっても、安易に添加物を使用しないようにしているため、実際の使用数は400物質ほど。素材本来の良さを生かした商品づくりをすすめています。

パルシステムと国の添加物総数比例



Product

こんせんくんチョコもなかアイス

アイスには根釧地区の濃縮乳、チョコレートには国産乳使用と原料にこだわりました。もなか皮は着色料・甘味料不使用!



塩・ソース焼そば(産直小麦使用)

麺から着色料のクチナシ色素を抜いてリニューアル! 既存商品でも、添加物を減らす取り組みをすすめています。



組合員による開発協力商品

メーカー・パルシステム・組合員が協力して、組合員の“あったらいいな”を形にする商品開発チーム。2021年度は、10名の組合員が参加し、PB商品の「産直りんごのアップルパイ」をリニューアルしました。



2021年度商品開発チーム「アップルdeスマイル」



りんごの存在感をアップさせるため、シロップを抜き甘さを抑え、レモン果汁で酸味をプラスしました。

2022年秋頃発売予定

食の安全を求める取り組み

パルシステムは、遺伝子組み換え食品に反対するとともに、ゲノム編集技術応用食品に対しても「原則として反対」の姿勢を示し、署名や意見書の提出を通じて、国に安全性審査や表示の義務化を求める運動をすすめました。



理事長から農林水産省に
「種苗への遺伝子操作の表示を求める署名」を提出

また、映画上映学習会、関連書籍の販売、動画配信、情報誌「食べものナビゲーター」などを通じて、組合員とともに学び考える機会を設けました。



「遺伝子組み換えナタネ自生調査」の説明動画

日本では栽培が認められていない遺伝子組み換えナタネ(菜の花)を探す市民調査にも参加!

動画はこちら



02 商品の価値を伝える

パルシステムは、商品を選ぶことで社会を変える取り組みを実践しています。
商品の価値を広めるため、学習会や産地見学などを開催し、
組合員と生産者やメーカーをつないでいます。

組合員講師やメーカーから 商品を学ぶ活動

食育リーダー・PLA

食育活動や商品への理解を広げるため、組合員講師「食育リーダー」「PLA（パルシステム・ライフアシスタント）」による食育講座や学習会を開催しています。2021年度は、オンライン学習会を多数開催。お子さまからシニア層まで幅広い年代の組合員に参加いただき、食育や商品の魅力を伝える取り組みが広がりました。



食育リーダーのオンライン食育講座「卵サンドをつくっちゃおう！」



PLAオンライン企画「大豆ドライバックで作る☆カンタン袋みそ」

大豆ドライバックで作るカンタン袋みそ

動画は
こちらから



商品を通じたサステナブル・アクション

パルシステム「商品づくりの基本」に沿ってつくられた「ほんものの商品」を“選ぶ”ことで“社会を変える”ことを目指し、2014年度から取り組んできた『『ほんもの実感！』くらしづくりアクション』。

生産者・メーカーから商品学ぶ「ほんもの実感」
商品学習会も、この運動のひとつ！



おうちde作り手に会おう！
「シーボーン昭徳・昭徳の
産直九州産あじひらき」



おうちde作り手に会おう！
「産直小麦のホットケーキミックス」

次なる展開にすすむため
2022年度 新たな運動名称が！

「選ぶで変わる」精神は継続しつつ、環境・地域福祉・平和を包括した、時代の半歩先を行く取り組みをすすめていきます。

もっといい明日へ
超えてく

3つの行動テーマ

- ① 自分らしく選ぼう、明日のために
- ② 出会いに行こう、物語を見つけよう
- ③ 声に出していこう、世界を変えていこう

03 食料自給率の向上を目指して

世界最大の農産物純輸入国といわれる日本。食料自給率は先進国の中で最低水準です。
パルシステムの産直は、環境保全・資源循環を基本におき、
農と食をつないで、豊かな地域社会をつくることを目的としています。

米づくりの体験実習 「お米の出前授業」

小学5年生を主な対象として、小学校や幼稚園・保育園、地域コミュニティなどで出前授業を行っています。食の多様化が進むなか、日本人の主食であるお米の大切さや、作り手の取り組みを体験型で実施。お米への興味関心、生産者への親近感を通して、「お米を食べよう！もう一杯！！」と食料自給率の向上に取り組んでいます。

Data

2021年度

出前授業を受講した児童・園児数

131校(園) 10,106人

うち小学5年生10,023人
都内小学5年生の9.7%



「苗植え実習」の様子

産地交流

パルシステムが掲げる「産直四原則」に基づき、生産者と組合員相互の交流を行っています。オンラインのメリットを活かし、厳冬期の産地の様子や、防疫の観点から普段は関係者以外が立ち入ることができない鶏舎からの中継などを実施。産地の自然環境やさまざまな取り組みを共有し、「互いの顔が見える関係」を続けています。



おうちで産地交流(御坂うまいもの会)

公開確認会

農産物の栽培方法や安全性への取り組みを組合員が確認するパルシステム独自の取り組みです。2021年度は富良野青果センターとオンラインで結び、自然災害によって受ける



富良野青果センター公開確認会の様子

産地の課題を共有。大干ばつの影響で食味は劣らないものの、基準サイズ以下のため出荷できない農作物を食品ロス観点から商品化する提案をし、改善につなげました。

富良野青果センター公開確認会

動画は
こちらから





01 地球温暖化を防ぐために

近年、世界各地で地球温暖化が原因と見られる異常気象が頻発しています。パルシステム東京は「パリ協定」や「地球温暖化対策の推進に関する法律」などに沿って、事業所や組合員家庭の省エネ推進といった取り組みを行っています。

SNSを活用した 省エネ投稿キャンペーン

パルシステム東京公式Twitterのフォロワーを対象に、自身が実践している省エネテクニックを投稿してもらう「冬の省エネ“ちょこっと”投稿キャンペーン#だけでエコ」を行いました。のべ73名の参加者からは多様なアイデアが寄せられ、寒い冬を快適に過ごすためのテクニックを共有し合いました。今後もさまざまな施策を通して、気候変動対策及び脱炭素社会の実現を目指します。



キャンペーン参加者から寄せられた投稿の一部

何度もお風呂の追い炊きをしないで済むように、家族でお風呂のタイミングを合わせる！

いいね！

カラダ本来の機能が活躍できるように、普段使わない場所をストレッチ。

保温できる大きな水筒に温かいお茶を入れてちょこちょこ飲む。

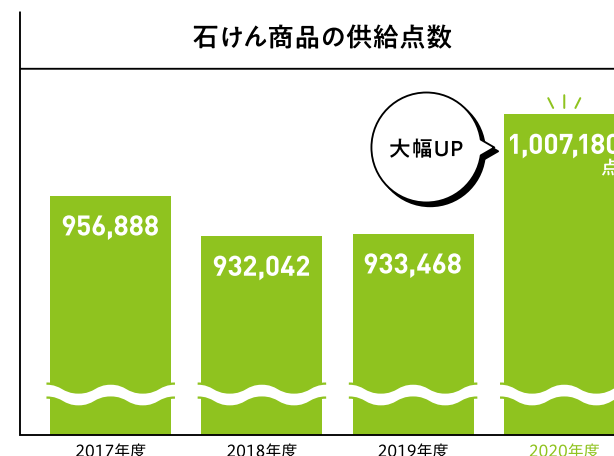
湯たんぽを足元に置いて眠る。体中ぽかぽかします！

02 石けんの利用普及

工場や家庭からの排水や化学肥料・農薬などによる水質汚染は自然の生態系を破壊し、地球の水循環に大きな影響を与えています。パルシステムでは、合成洗剤の取り扱いをせず、すべての洗浄剤において自然界で分解されやすい石けんの利用普及をすすめています。

コロナ禍における 石けん需要の増加

石けん商品の供給点数は、2019年度以前を大幅に上回りました。理由としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、主に手洗い石けんなど衛生用品の需要が高まったこと。そして同じ理由により新規組合員が増加したためと考えられます。



厚生労働省は感染症対策の基本として石けんやハンドソープを用いた手洗いを挙げており、改めて有用性が見直されています。同省のホームページによると、手指についたウイルスの数は石けんで10秒もみ洗いし、流水で15秒すすぐと1万分の1に減らすことができ、手洗いを丁寧に行うことで十分にウイルスを除去できるとのことです。

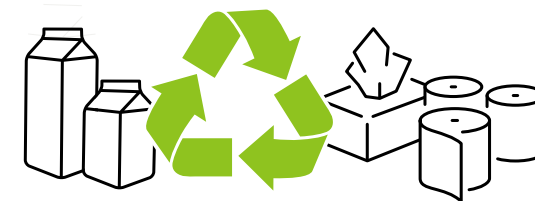


パルシステムの石けん商品ラインナップ



生活用品にもエコカルを

2021年9月より新登場した「地球の未来にまじめなボディソープ」。使用後は牛乳パックのように切り開いてパルシステムで回収、トイレトペーパーやティッシュペーパーにリサイクルすることができます。



原料には、コロンビアのパーム油やスペインのエキストラバージンオリーブオイルを使用することで、新たに森林を切り崩さず自然環境を活かした農法を実践。地球の未来のことをまじめに考えた持続可能なボディソープとなっています。



国内初の紙パック浴用商品『地球の未来にまじめなボディソープ』

2021
Product
JUDGE

SUSTAINABLE
COSMETIC
AWARD

サステナブルコスメアワード2021
「審査員賞」「SDGs賞」をW受賞

CERTIFIED
SUSTAINABLE
PALM OIL
RSPO
CERTIFIED
RSPO-1106245

認証された持続可能なパーム油の生産に貢献している商品です。

動画は
こちらから



03 3Rとプラスチック問題

大量生産、大量消費、大量廃棄社会である現代の日本。
一人ひとりの暮らし方と習慣で、ごみ問題の多くを改善できる可能性があります。
パルシステム東京ではさまざまな機会を通して、暮らしを見直す提案をしています。

プラスチック問題出前講座

パルシステム東京では、組合員向けのプラスチックごみに関するDVD貸し出しやリサイクル施設見学会の開催など、プラスチックごみ問題を考えるきっかけづくりに積極的に取り組んでいます。
2021年度は、プラスチック問題出前講座を開催しました。出前講座では、比重の異なるプラスチック片を水に投入する実験などを行い、水に浮かぶものと沈むものがあることを参加者の皆さんと確認できました。

出前講座の様子



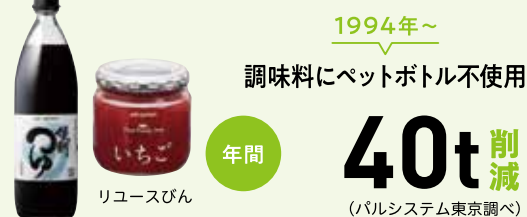
日本各地の海岸などから採取したマイクロプラスチック

容器包装プラスチックの排出総量削減

パルシステムはプラスチックごみ問題が大きく取り沙汰される前の1990年代から、資源循環型社会の実現を目指し、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進に取り組んできました。特に2017～2019年度は商品事業における容器包装のプラスチック排出総量削減に取り組み、一定の成果を挙げました。今後は量的な効果が大きい商品や分野、また物流資材として用いる商品のまとめ袋など、事業活動に用いるプラスチックにも取り組み範囲を広げ、対策をすすめます。

Data

パルシステムのプラスチック削減量



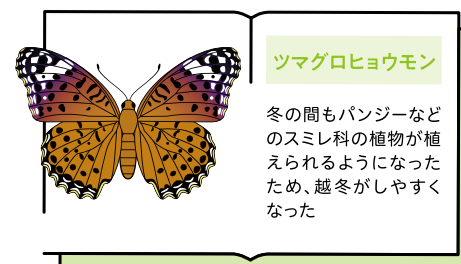
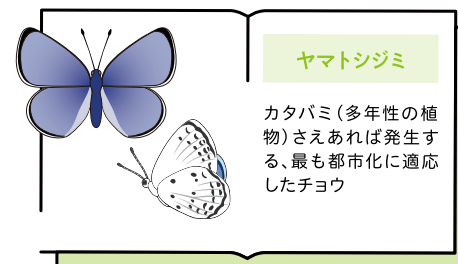
04 身近な自然を守る

人々のくらしは多様な生き物が関わり合う、生態系からの恵みに支えられています。
生物多様性保全と、地球温暖化防止や有害化学物質の削減などの環境活動は、深くつながっているという視点で、他団体とも連携した取り組みや学習の場を広げています。

組合員による生き物モニタリング

生物多様性保全の重要性を学び、地球環境保全へ貢献することを目的に行っています。東京大学総合研究博物館研究事業協力者の須田真一氏の協力のもと、チョウをはじめとした昆虫の生態を知ることで、都市部の生態系異変や気候変動に目を向け、生物多様性や人のくらしとのつながりを意識することができます。2021年度は、「いなぎめぐみの里山」で行いました。

東京都で見られるチョウの例



里山における竹材の有効活用

パルシステム東京が所有する「いなぎめぐみの里山」には竹林が広がるゾーンがあります。中国原産の孟宗竹（もうそうちく）は、その生命力や里山管理の衰退によって生育域が拡大する傾向にあります。そこで、里山の適切な管理や生物多様性保全を目的に、年数回、竹の伐採や工作を企画として行っています。こうして竹材を門松やとっくりとして有効活用することで、竹の本数や密度が適切に保たれ、発芽できなかった植物の種子も芽を出すことができます。

竹材の有効活用例



とっくりとお猪口、皿

門松



完成した門松は個性豊か

いなぎめぐみの里山へようこそ

動画は
こちらから



「人」の取り組み

組合員一人ひとりの思いが
地域の笑顔につながる。



01 地域とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動は貴重な場となっています。
人と人がつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、
パルシステム東京は組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。
また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

地域で広がる活動

パルシステム東京では組合員同士が学び合う「委員会活動」を中心に、さまざまな活動をしています。食の安全や環境、平和や福祉をテーマにしたものや、くらしを豊かにする文化的活動など、身近な地域やテーマごとにつながりを持っています。

Data

2022年3月末時点

パルシステム東京の委員会活動

委員会数 159委員会
2021年度企画数 347企画
参加人数 のべ3,590人

たすけあい活動助成金の活用

パルシステム共済生活協同組合連合会では、保障事業で生まれた剰余の一部を、よりよい地域社会の構築に向けて活用しています。主には組合員が自主的に行う子育て支援や福祉たすけあい活動、ライフプランニング活動、健康維持活動などへの助成金です。

2021年度は、地域の担い手づくりや居場所づくり、がんに関する啓発アクション、子どもの甲状腺検診、子ども食堂への調味料支援などの助成金を活用した取り組みを行いました。



ボランティア養成初級講座

市民活動助成基金

安心してらせる社会づくりを目指し、活動する「草の根の市民団体」。パルシステム東京では、組合員が商品やサービスを利用することで生じる剰余金をもとに、資金面で支援しています。助成終了後の団体間連携などもすすめ、顕在化していない社会課題について、組合員や社会の認知を広げる取り組みにもつなげています。

Data

市民活動助成基金 実績

2021年度 11団体 約472万円
1998~2021年度(累計) のべ283団体
約1億1,079万円

2021年度「市民活動助成基金」
助成団体は
パルシステム東京
ホームページで公開しています。

HPは
こちらから



創立50周年記念事業 「地域イベント」を開催

50周年を支えてくれた組合員へ感謝の気持ちを伝え、ともに祝いする機会として、また私たちが50年間築き上げてきた商品や運動、志を実感できる機会として各エリアの実行委員会がさまざまな工夫を凝らし、地域イベントを開催しました。



各地域イベントの様子



地域福祉推進の取り組み

パルシステム東京は、小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して、自分らしいくらしを続けられるように、地域ごとの福祉課題に取り組む「地域福祉」を推進しています。

パルシステム東京の施設活用

地域の保育園との連携や、生活困窮者の自立支援の取り組み、委員会交流企画などでパルシステム東京の施設(会議室、調理室、いなぎめぐみの里山)を活用しています。また、行政と連携した高齢者の地域デイサービス、学習支援、障がいのある子どもを持つ家族のレスパイトケアなど、地域の活動を応援する取り組みを継続しています。



多摩センターの交流ルームを活用した「南野カフェ」

フードバンク・子ども食堂などの支援

社会福祉協議会やフードバンクといった地域ネットワークを通じ、支援を必要とする施設(子ども食堂、児童福祉施設、自立支援施設、個別家庭など)へ、パルシステム予備青果を提供しました。また、コロナ禍で生活に困窮する方への緊急支援策として、フードバンクなどの団体から要望の高い「お米」55tを提供しました。



産直米「岩手いわてっこ」を提供(足立センター)

02 平和なくらしを守るために

平和で公正な社会の実現に向けた「パルシステム東京平和政策」に基づいて、「平和な共生の世界を目指します」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切にする社会づくりをすすめます」「次世代が希望をもてる地域をつくります」を基本に、組合員とともに平和活動を推進しています。

国際協力・国際連帯

平和カンパ

紛争や貧困、飢餓、難病などの厳しい状況にある世界の子どもたちを支援するカンパを毎年実施。7つの国際支援団体から、組合員がカンパ先を選べます。

Data

2021年度 …… 7団体 1,085万3,456円
1996～2021年度累計 …… 約1億8,797万円



タイ国境付近のミャンマー難民キャンプにおけるコミュニティ図書館活動。
©(公社)シャンティ国際ボランティア会

書き損じハガキ等回収キャンペーン

家庭に眠る不用品を寄付して国際貢献につなげる活動をNGOの3団体と連携して取り組んでいます。2021年度は8,433件の寄付が寄せられました。

Data

2021年度 …… 3団体 1,843万3,350円
(寄付品の換金額)



アフリカ大陸の途上国で住民を主体とした飢餓解決に取り組む。写真はベナンにて、地元産ナッツなどの紹介ブース。
©ハンガー・フリー・ワールド

日韓生協交流

2001年から交流が続いている韓国・高陽坡州(コヤンパジュ)ドゥレ生協。2021年8月6日の広島原爆の日、両生協の組合員がつくった千羽鶴を、広島県生協連の協力を得て献納し、オンラインでその様子を分かち合い、平和の想いをともにしました。



平和について学ぶ活動

オンライン学習会

世界の紛争、難民問題、核兵器、基本的人権などの社会問題を学ぶオンライン学習会。料理の紹介をしながらの対談や、学生や20代の若者を中心としたトークセッション、参加者の投稿をシェアするなど、さまざまな形式で開催しました。



トークライブ「いっばい未来の話、しよう」

日本の原爆開発を背景とした映画「太陽の子」。監督の黒崎博氏とプロデューサーの森コウ氏を迎え、核廃絶に向けた活動をしている若者たちとのトークセッションを行いました。

動画はこちらから



東京下町戦跡めぐり

都内の身近な戦跡をめぐり、平和について考えるフィールドワーク。江東区の東京大空襲の痕跡が残る場所を歩き、「東京大空襲・戦災資料センター」では体験者であり語り部を務めている、二瓶さんから当時のお話を聞きました。



戦跡をめぐり、それぞれの場所にまつわる空襲被害の説明を聞く。



二瓶治代さん

03 被災地の復興を支援する

「3.11を忘れない」を基本視点に、被災地の現状を学ぶスタディツアーや支援カンパ、子どもの甲状腺検診に取り組むほか、東京でのシンポジウムを継続的に実施しています。また、日本各地で発生する災害による被災者への緊急支援募金やパルシステムグループ連帯での支援活動も行っています。

被災地を支援する

東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金

福島原発事故の被災者を支援するNPOなどの市民団体を応援するため、パルシステムグループで募金活動を行いました。

Data

2021年度 …… 16団体 644万3,340円
パルシステム 東京推薦分 …… 5団体 450万円
※城南信用金庫ボランティア預金利息配分を含む。



行政の支援が届きにくい、被災地での障がい児ケア活動をしている「ふよう土2100」。野菜づくりなどの体験事業を通じて、発達障がいの子どもの自立の道につないでいきます。
©ふよう土2100

震災復興支援基金「パル未来花基金」

東日本大震災の被災地、被災者を支援する“組合員の復興支援活動”を応援する基金です。

Data

2021年度 …… 10団体 239万4,702円
2014～2021年度累計 …… 約2,866万8,322円



プラネタリウムや星空の観望会をしている「星つむぎの村」。2021年度はオンラインで被災地の方と交流。遺族の方にお渡しする鳩のモビールを制作しました。
©星つむぎの村

南三陸#食べて応援プロジェクト

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた南三陸では、生産者コミュニティと、復興に向けた取り組みをすすめています。通常のカatalog注文とは別に、南三陸産カキ・タコ・ワカメの販売を通じて応援するプロジェクトです。

Data

2021年度 …… 受注合計 469点
受注金額 265万4,420円

被災地の今を知る

福島スタディツアー

福島に訪れ、見て、聞いて、感じるスタディツアー。2021年度は事前に取材を行い、オンラインで開催。視聴者とともに福島「今」を体感しました。



2020年に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館。東日本大震災の津波被害だけでなく、原発事故による複合災害も後世に伝承するために建てられました。



福島県相馬郡新地町で漁業を営む小野さん。「ALPS処理水の海洋放出など、問題はまだ続いている」と話します。

動画はこちらから



3.11を忘れないシンポジウム

被災地の今を知り、東京から私たちができることを考える場として、毎年3月に開催。2021年度は映画「千古里の空とマドレーヌ」上映&監督トークをオンラインで開催しました。津波で被災した宮城県南三陸町を舞台に、夢を追うパティシエの物語から、「支援をする人」と「支援を受ける人」の思いを知ることができました。



我妻和樹監督。映画「波伝谷に生きる人びと」「願いと揺らぎ」など。

復興支援10年のあゆみ



2011～2020年までのパルシステム東京の復興支援活動レポートを1冊にまとめた『10年のあゆみ(Pray for Japan)』を発行しました。ぜひご覧ください。
詳しくはこちらから



働く環境づくり・人材育成

働きやすい職場であることは、よりよい社会をつくる第一歩です。パルシステム東京では、働き方改革や教育・研修、障がい者雇用などさまざまな環境の整備や人材育成に積極的に取り組んでいます。



働きやすい職場づくり

「働き方改革関連法」施行といった社会的要請に応えること、また、組織としても働きやすい職場を目指し、2022年度も引き続き残業抑制に取り組むとともに、有休5日取得義務化の促進においても大きく前進しました。また、働き方改革関連法に伴う同一労働同一賃金対応の一環として、「家族手当」から「子育て手当」に2022年度より移行開始できるよう、準備をすすめました。



熱中症対策としてベストタイプの空調服を着用

「くるみん」の取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策をはかる子育て支援など、一定の基準を満たした企業や法人が厚生労働省によって認定される「くるみんマーク」を取得しています。2020年度末にて第5期の計画期間が終了し、認定マークが更新されました。



「次世代育成推進法に関する一般事業主行動計画」及び「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」は、パルシステム東京ホームページで公開しています



ウッドスタート宣言

NPO法人「芸術と遊び創造協会」は、子どもをはじめとする全ての人たちが、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らしを送るための「木育」行動プランに取り組んでいます。パルシステム東京は同プランに賛同し、2015年より福利厚生の一環として、赤ちゃんが誕生した職員家庭へ、国内でつくられた「木のおもちゃ」を贈呈。「木のおもちゃ」をファーストイとしてお届けすることにより、木材を身近に触れる機会を提供し、豊かな子育て環境を応援しています。



原木しいたけの産地とつなぐ（JAつくば市谷田部）

教育・研修プログラム

パルシステム東京の職員に対して、理念・ビジョンの浸透をはかり、日常業務に活かせるよう、例年さまざまなプログラムを行っています。2021年度もコロナ禍の影響により、必要に応じて内容や形式を変更しながら実施。入協直後の新人研修は、新卒採用者・中途採用者共に対面形式で実施しました。新卒採用者は約1カ月間の研修期間を設け、スキルや知識の向上のほか、同期同士の関係性を築く時間となりました。中途採用者は新人研修に加えてフォローアップ研修をオンラインで実施し、パルシステム東京に対する理解を深めました。

産地研修・パルカレッジ

感染リスクを考慮し、予定していたプログラムのほとんどが中止となりましたが、2021年度新卒採用、並びに中途採用者のフォローアップ研修では産地とオンラインで結び研修を行いました。



障がい者雇用

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構より、「障害者を積極的に多数雇用し、かつ、障害者の雇用の促進及び職業の安定に著しく貢献した事業所」として、雇用支援機構理事長表彰を受賞。また、東京都障害者雇用優良取組企業選定委員会より「障害者が職場でいきいきと活躍することができる環境整備のための特色ある優れた取り組み」が認められ、障害者雇用エクセレントカンパニー賞（東京都知事賞）を受賞することとなりました。

詳しくはこちらから



「障害者雇用エクセレントカンパニー賞」受賞の様子
(左：根本 東京都産業労働局次長 右：松野理事長)

労働安全衛生の取り組み

安全で働きやすい職場環境をつくるため、各事業所で月1回の「安全衛生委員会」を開催。リスクアセスメントや4S（整理・整頓・清掃・清潔）、産業医による職場巡回などの実施により、健康管理と労働災害防止に努めています。

メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな相談に、産業カウンセラーと看護師資格を有する産業保健スタッフが対応。専門性を活かし、職員の心と体の健康管理を支えています。



リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針（組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針）」（2009年12月制定、2021年3月改定）に基づき取り組んでいます。

内部統制システム基本方針の検討

毎年定期的に①機関設計の見直し②法改正③生協業界の動向④業務内容の大幅な変更⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメントシステムの推進

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行っています。その上で組織全体で重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しています。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化及び「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講などにより、監査能力の向上に努めています。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「ここから健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。

相談窓口（ヘルプライン）

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しています。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事及び執行役員並びに2人の外部有識者で構成。特に外部有識委員（弁護士、コンプライアンス専門家）の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。